

二化螟虫第1化期の發蛾最盛期と降雨量との關係

是 石 鞏

熊本縣立農事試驗場

二化螟虫の第1化期の發蛾最盛期の遲速は其の年の螟虫の被害に大なる關係を持つている。そこでその最盛期の遲速の因子について調査した結果、1～5月の降水量が關係あることを知り得た。

この事は熊本に於ける螟虫驅除對策を樹てるに有利と思はれるので豫察資料として、取り上げて見たいと思ふ。

1. 1～5月の降水量と1化期の發蛾最盛期との關係

大正8年から昭和23年までの二化螟虫第1化期の發

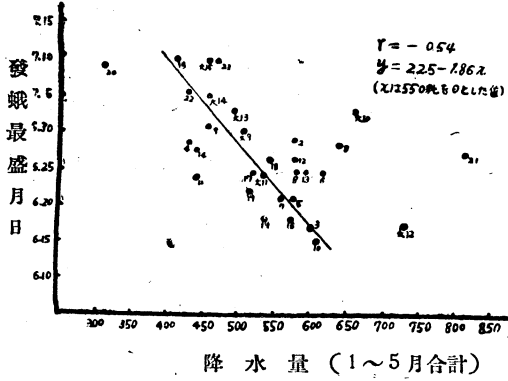
蛾最盛期と降水量との關係を表示すれば、第1圖の通りである。

第1圖の様に1～5月の降水量が500耗以内の年は發蛾の最盛期は遲延し、降水量が500耗以上になるにつれ最盛期が早くなる。然し又極端に多雨の場合も最盛期を遲延せしめる傾向が見られる。

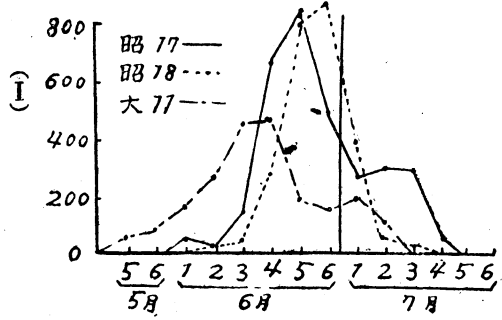
更に降水量と發蛾消長について見れば第2圖の通りである。

第2圖、第3圖、第4圖に示す様に降水量500耗以内の年は7月1日を中心とした場合殆ど右傾的發生型を示し、500耗以上になるにつれ左傾的發生型を示し

第1圖 1~5月の降水量と第1化期發蛾最盛期との關係



第3圖 1~5月の降水總量が500~600耗の年柄に於ける第1化期の發蛾消長



第2圖 1~5月の降水總量が500耗以内の年柄に於ける第1化期の發蛾消長

